

一級河川太田川水系 三篠川ブロック河川整備計画(変更素案) 説明資料



第1三篠川橋梁付近

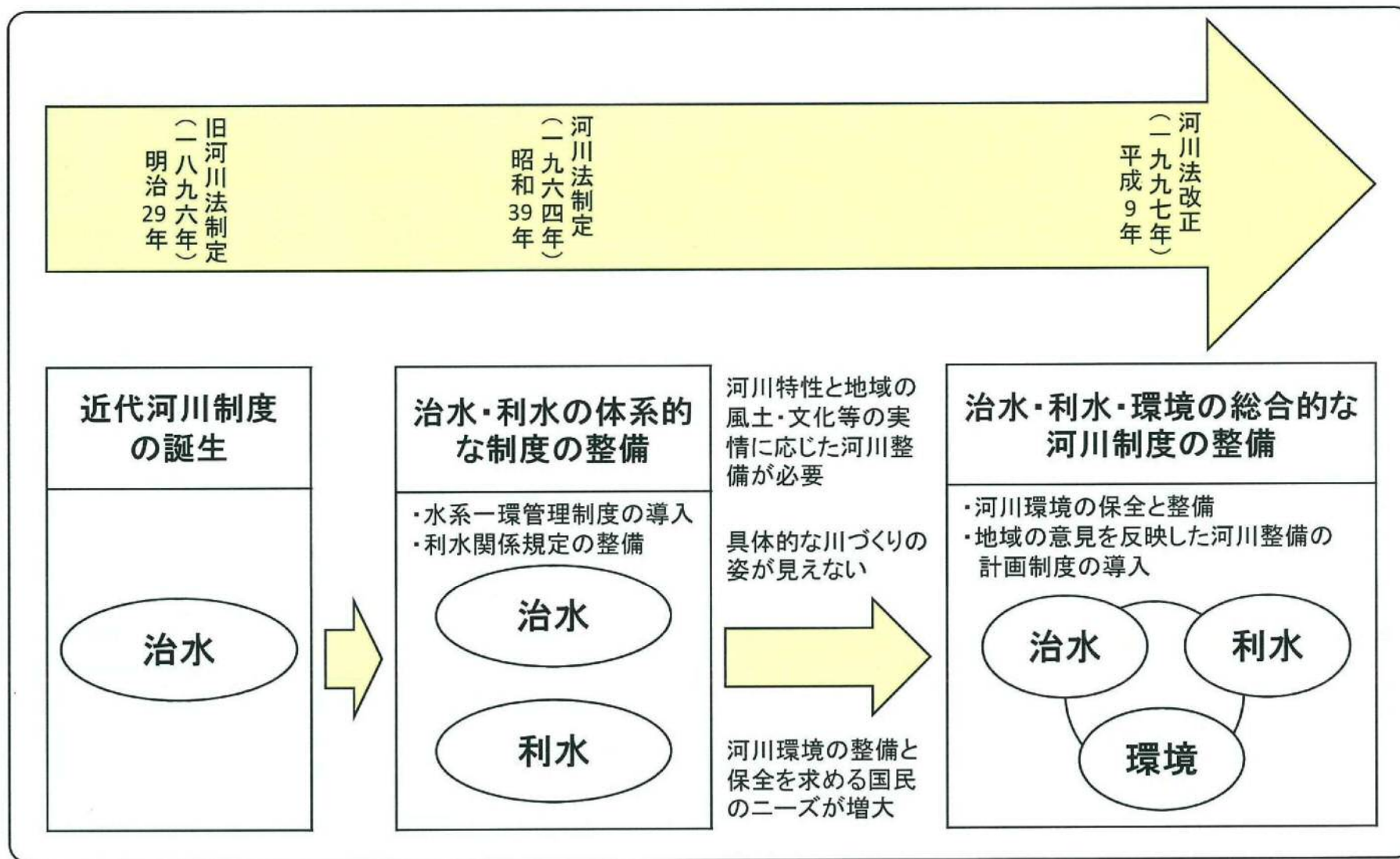
令和元年10月
広島県

目 次

1. 河川整備計画とは
2. 三篠川ブロックの概要
3. 河川整備計画の目標に関する事項
 - 3.1 計画対象区間及び計画対象期間
 - 3.2 洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項
 - 3.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
 - 3.4 河川環境の整備と保全に関する事項
4. 河川整備の実施に関する事項
 - 4.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに
当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要
 - 4.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所
 - 4.2.1 河川の維持の目的
 - 4.2.2 河川の維持の種類及び施行の場所
5. 河川情報の提供、地域や関係機関との連携等に関する事項

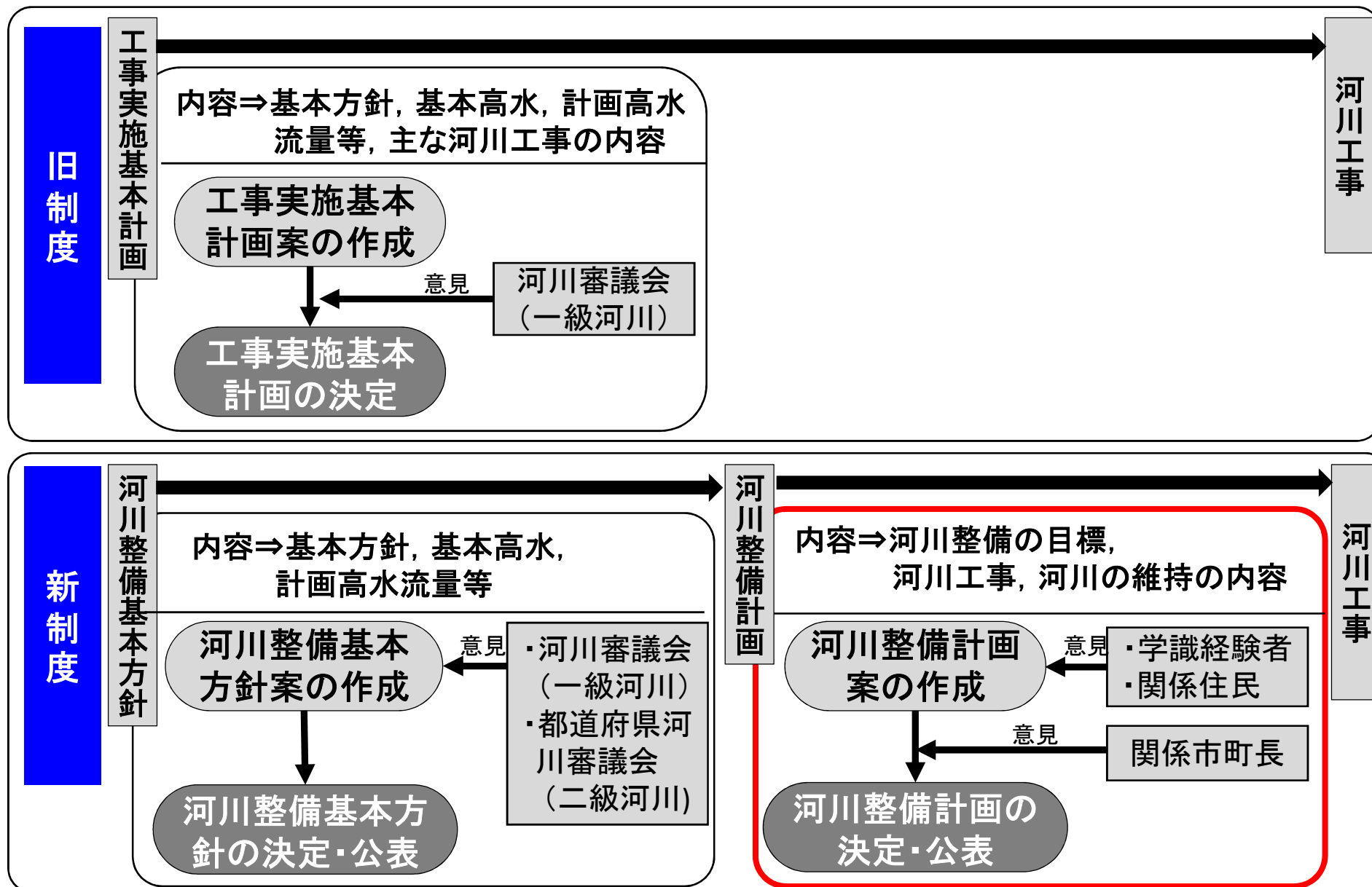
1. 河川整備計画とは

- 平成9年の河川法改正時に「環境保全と整備」を新たに追加された。



1. 河川整備計画とは

■ 「河川整備計画」は、学識経験者や関係住民、地方公共団体の長の意見を聴いて策定することとされています。



1. 河川整備計画とは

- 三篠川ブロックでは、平成15年7月に河川整備計画を策定。
- 平成30年7月豪雨を踏まえ、整備計画を変更するものです。

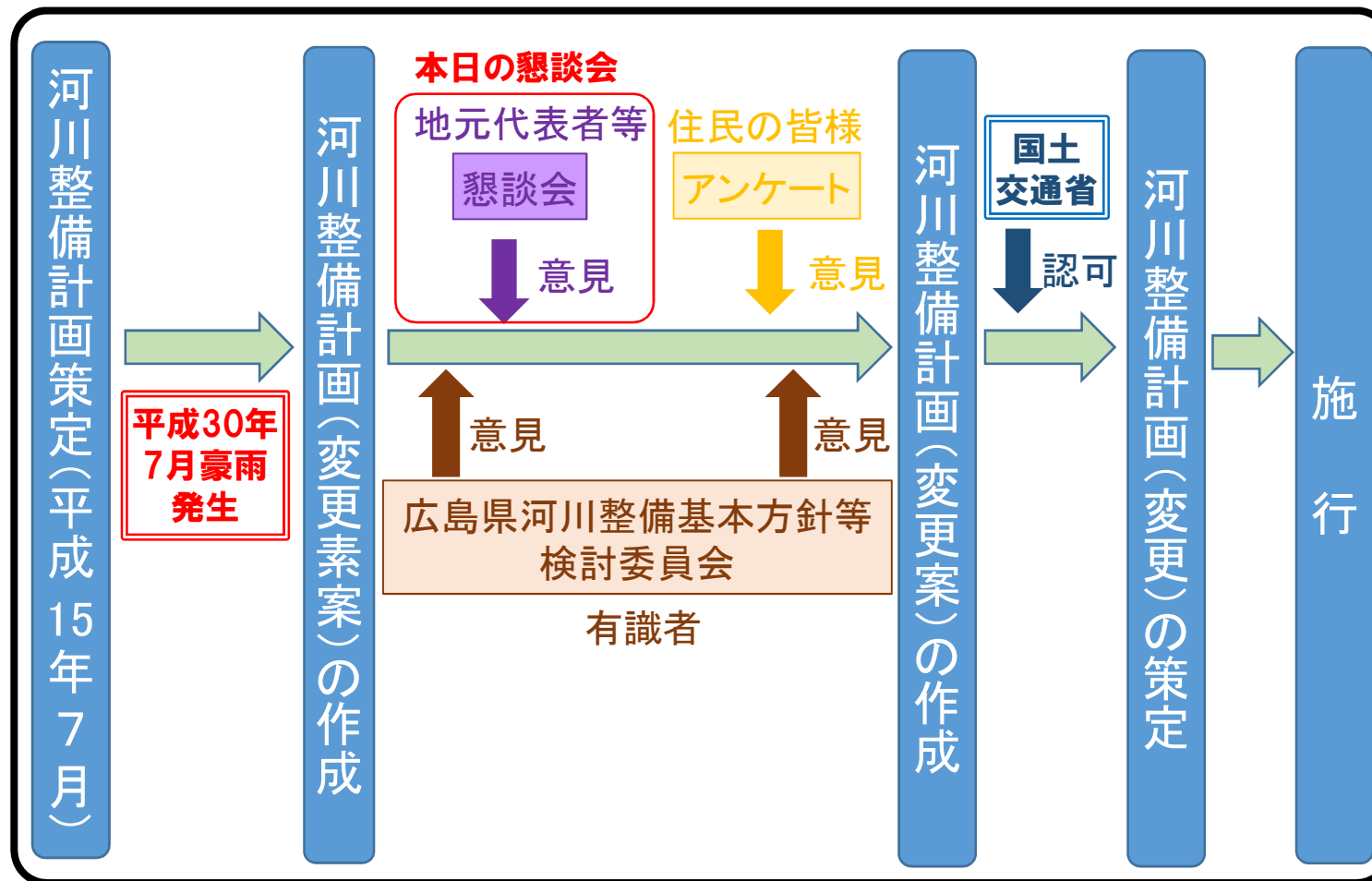
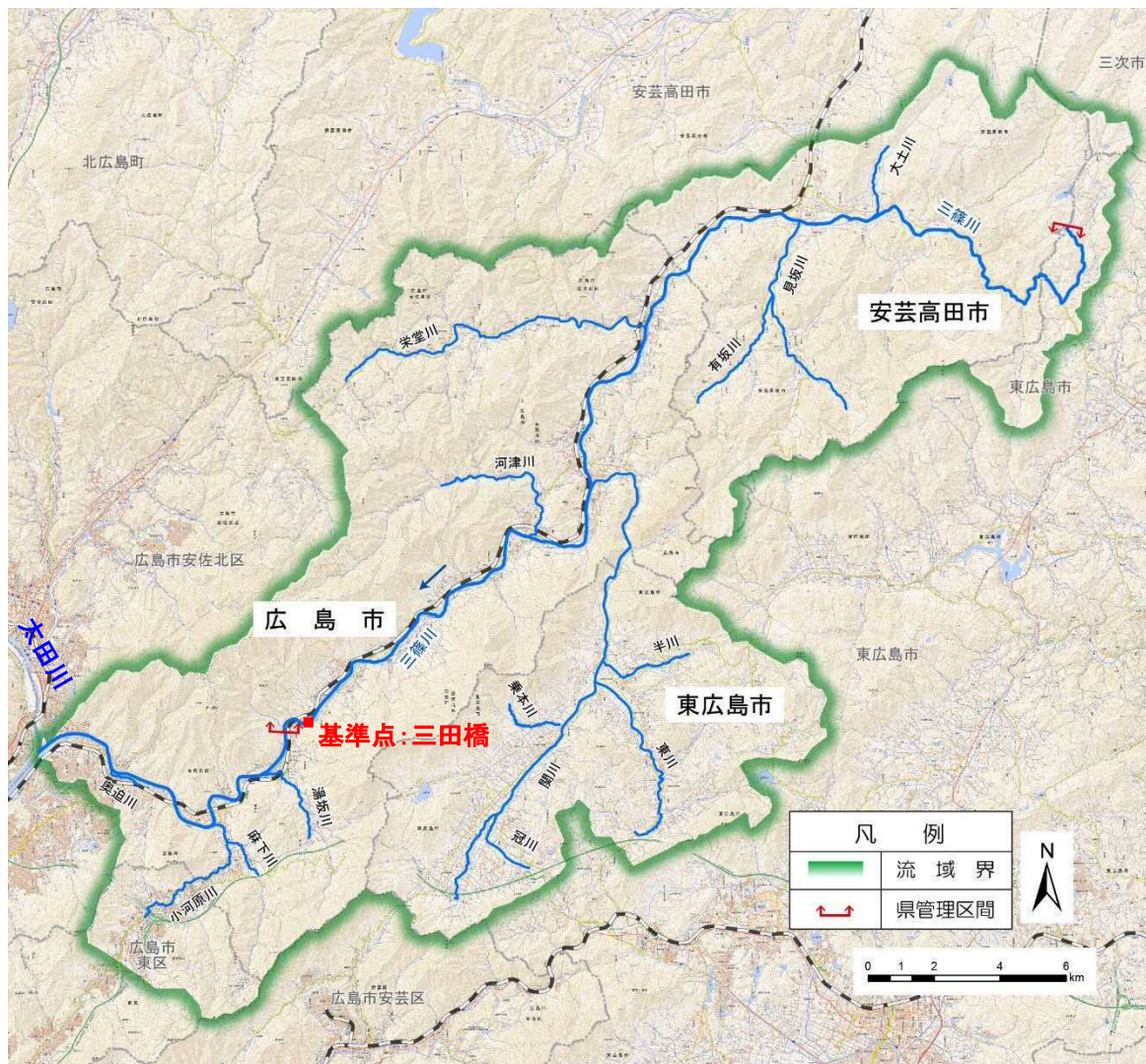


図 計画策定の流れ

2. ブロックの概要

■ ブロックの概要

太田川流域の下流東部に位置し、広島市、東広島市、安芸高田市の3市にまたがる。三篠川、奥迫川、小河原川、関川等の15河川で構成される。



三篠川 流域概要図

項目		数量
流域面積 (km ²)		274
幹川流路延長 (km)		42 (県管理区間33km)
氾濫区域内	面積(ha)	3,161
	人口(人)	10,984
	資産額(億円)	2,107

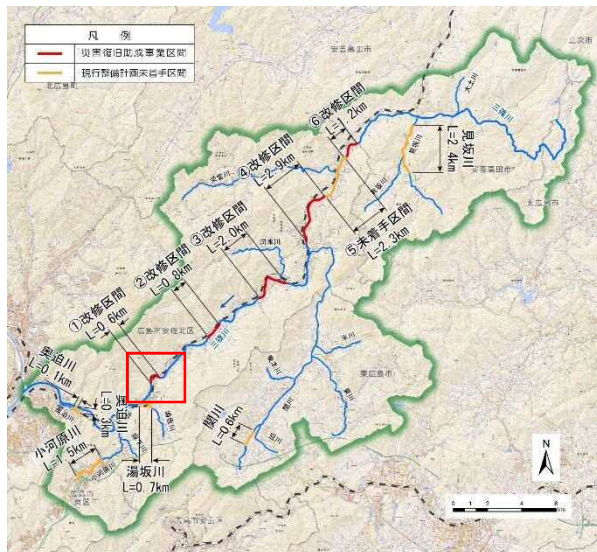
(人口は平成27年度国勢調査による算定結果
資産額は「治水経済マニュアル」に基づく算定結果
(平成30年10月時点))



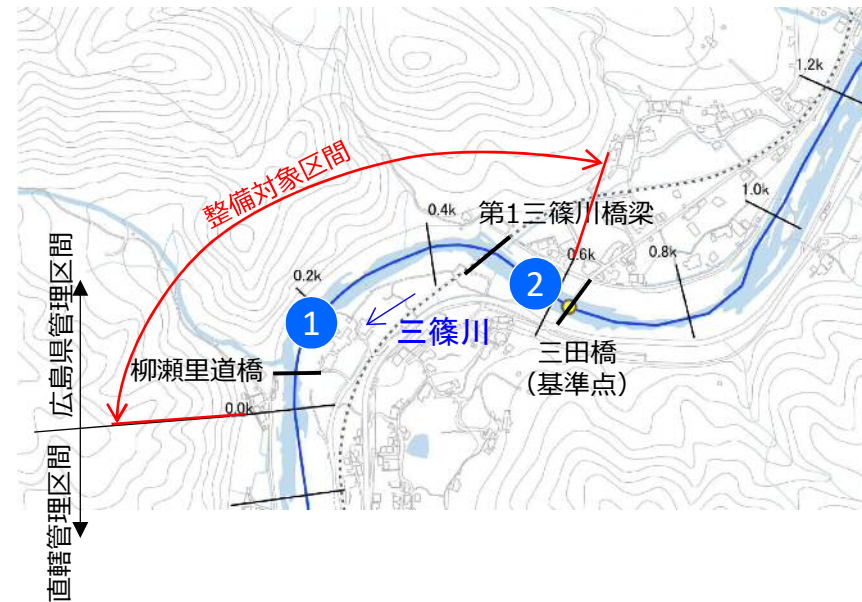
2. ブロックの概要

《三篠川 現況写真》

■柳瀬里道橋（落橋）付近



■第1三篠川橋梁付近



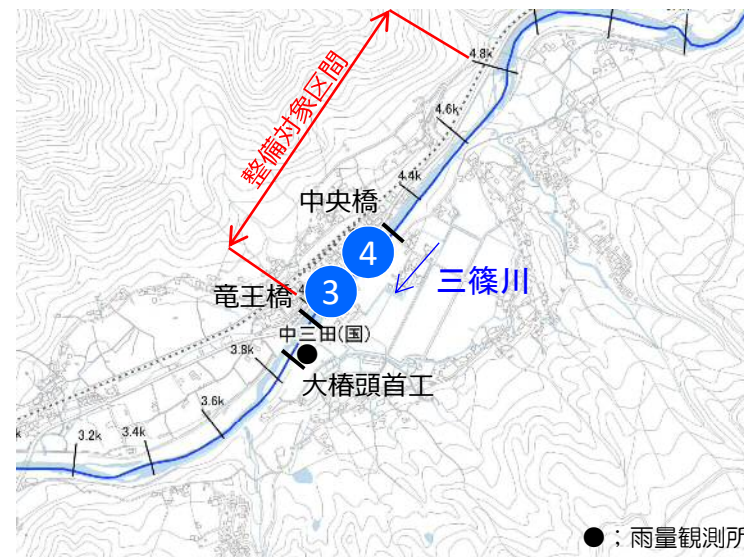
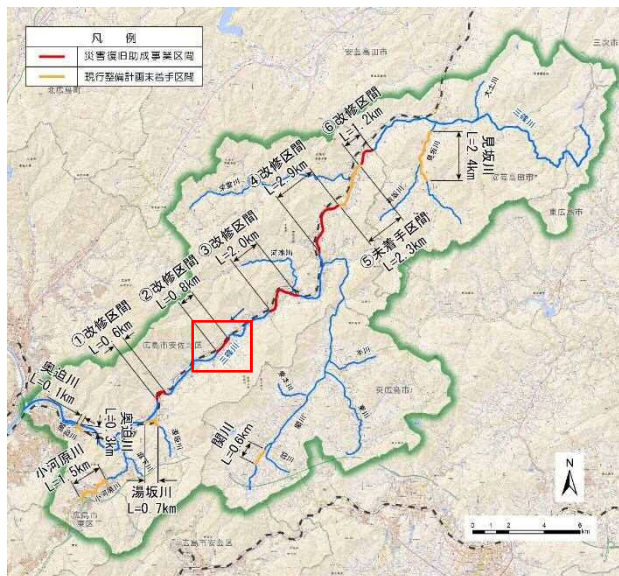
2. ブロックの概要

《三篠川 現況写真》

■ 竜王橋より上流を望む



■ 中央橋より下流を望む



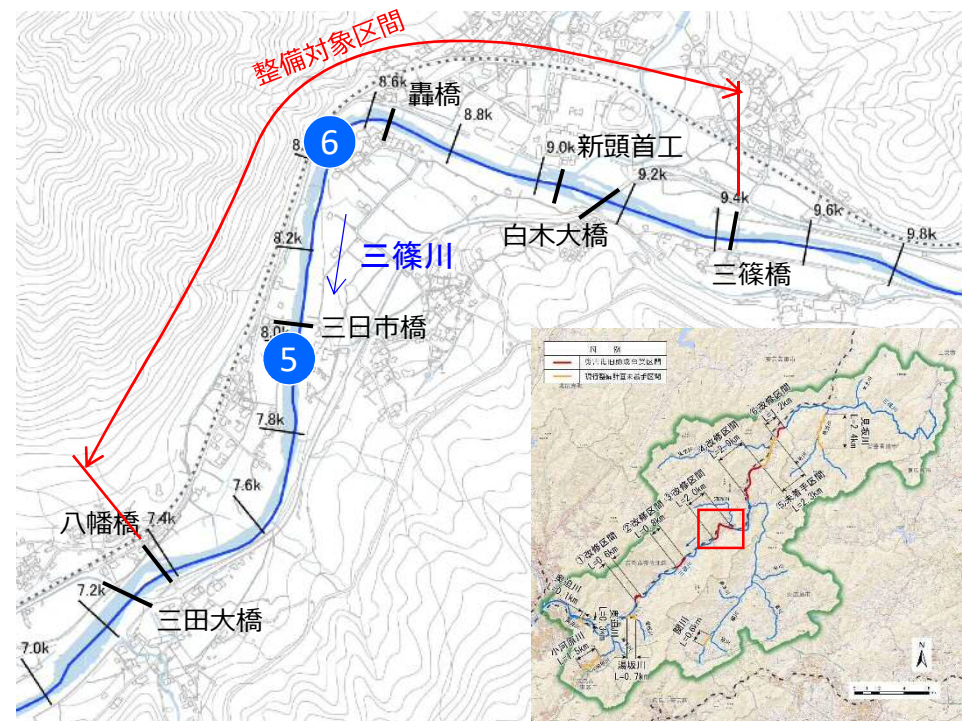
2. ブロックの概要

《三篠川 現況写真》

■三田市橋より下流を望む



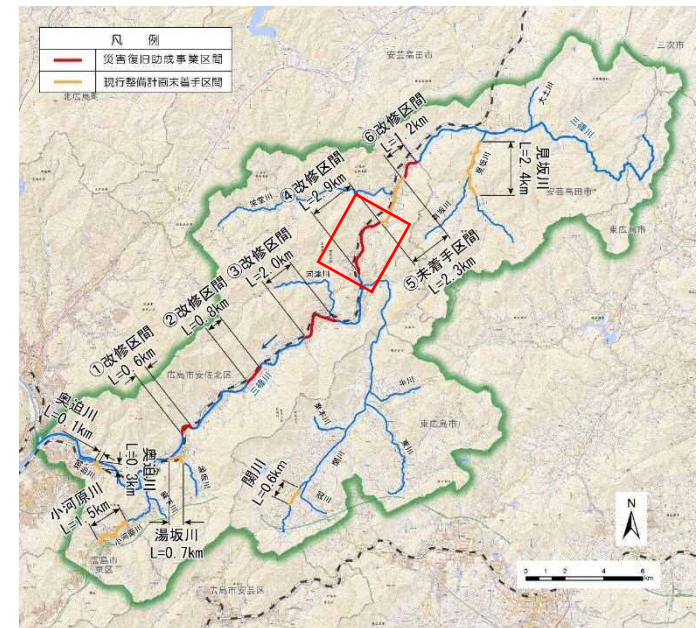
■轟橋付近



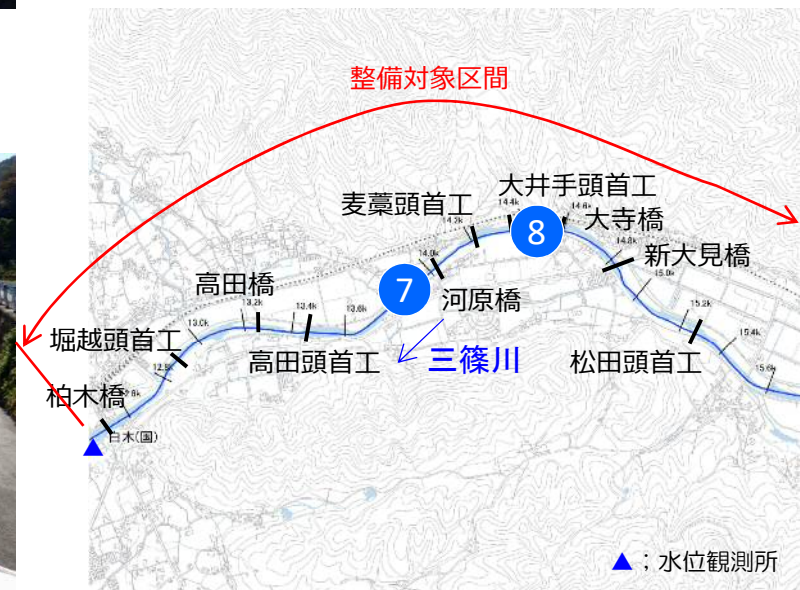
2. ブロックの概要

《三篠川 現況写真》

■河原橋より下流を望む



■大寺橋付近より下流を望む



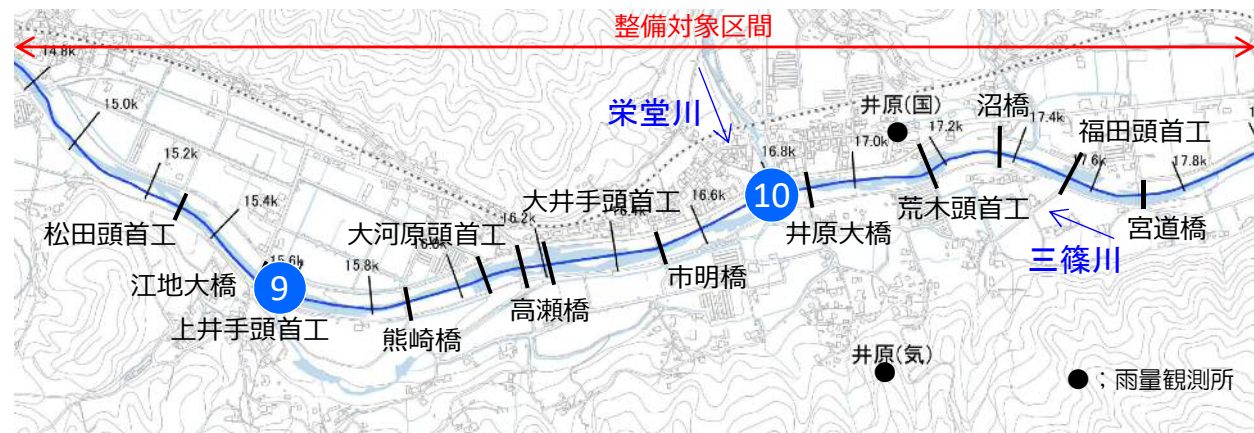
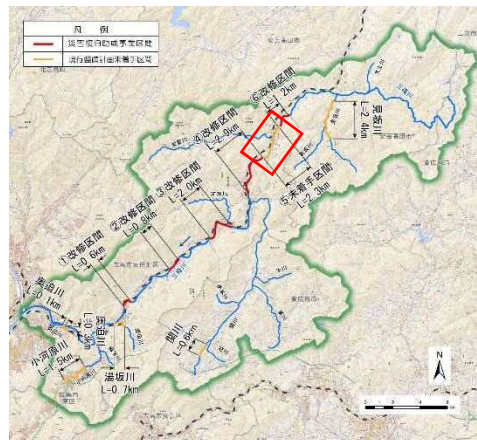
2. ブロックの概要

《三篠川 現況写真》

■ 江地大橋より上流を望む



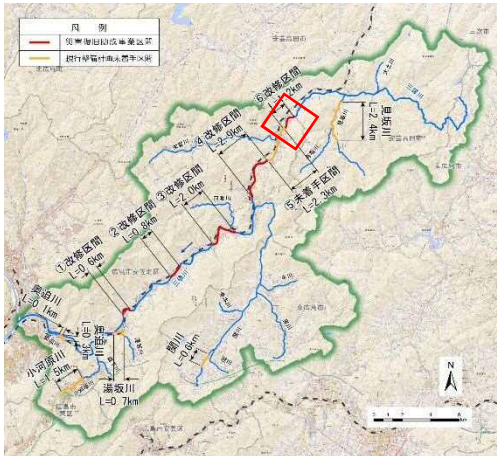
■ 井原大橋より下流を望む



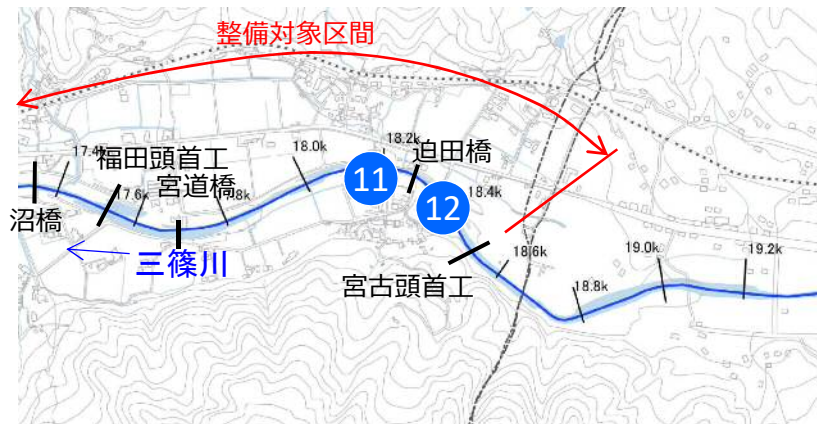
2. ブロックの概要

《三篠川 現況写真》

■ 迫田橋より下流を望む



■ 迫田橋より上流を望む



2. ブロックの概要

《奥迫川 現況写真》

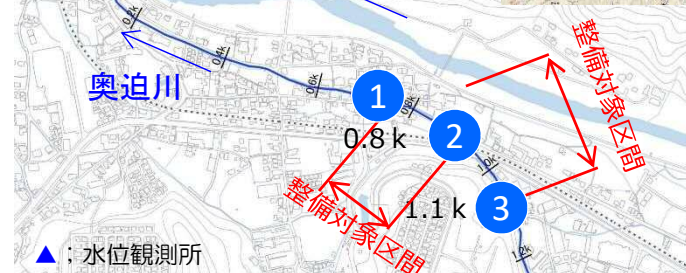
■0.8k 付近



■1.1k 付近



■0.8k 付近（放水路整備対象区間付近）



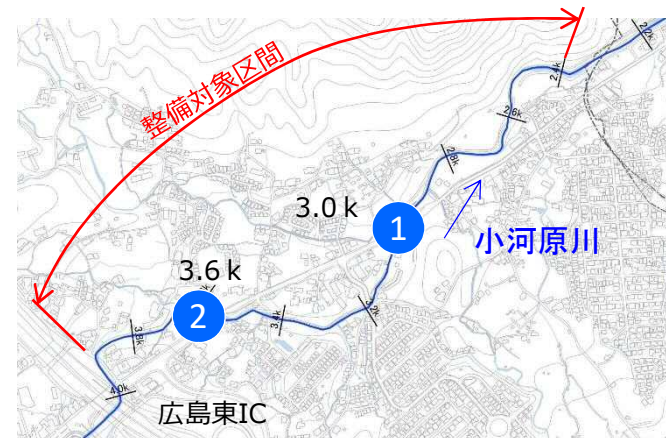
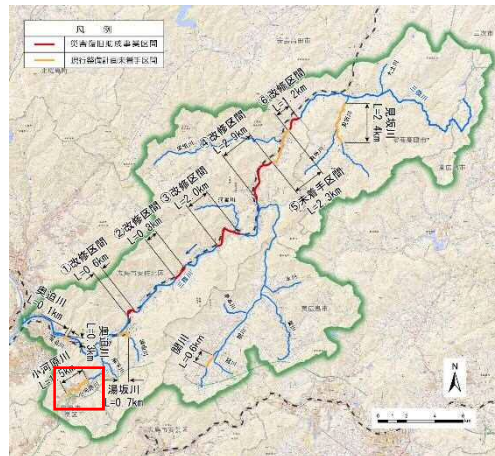
2. ブロックの概要

《小河原川 現況写真》

■3.0k 付近



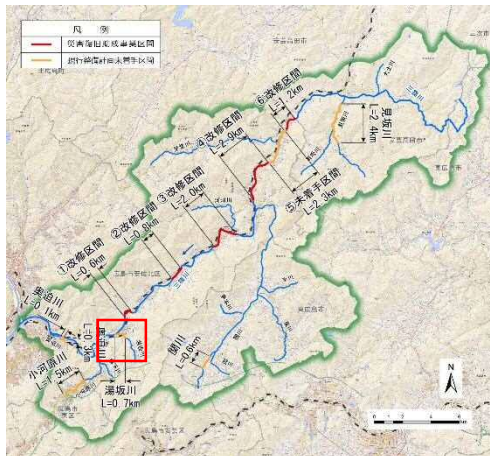
■3.6k 付近



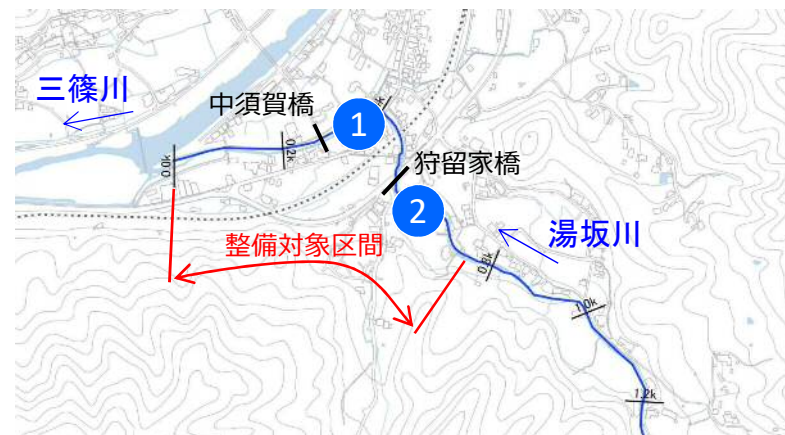
2. ブロックの概要

《湯坂川 現況写真》

■ 中須賀橋から上流を望む



■ 狩留家橋から上流を望む



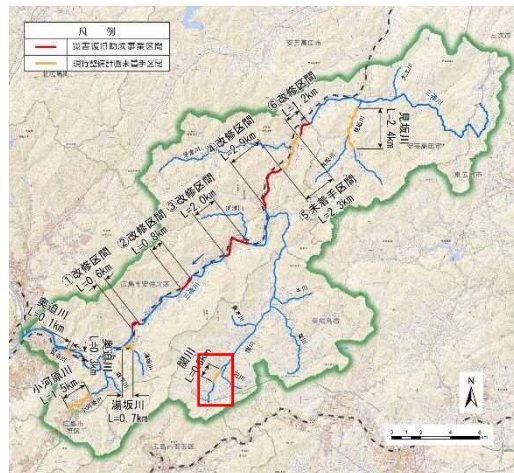
2. ブロックの概要

《関川 現況写真》

■ 11.4k 付近



■ 12.0k 付近



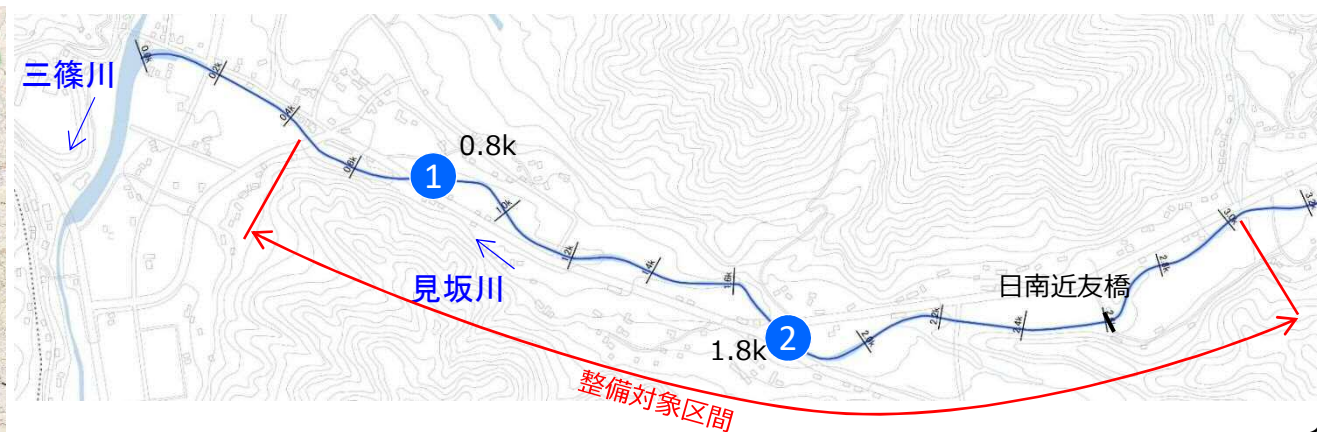
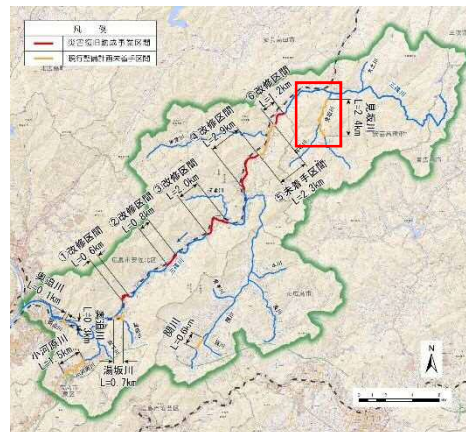
2. ブロックの概要

《見坂川 現況写真》

■0.8k 付近



■1.8k 付近

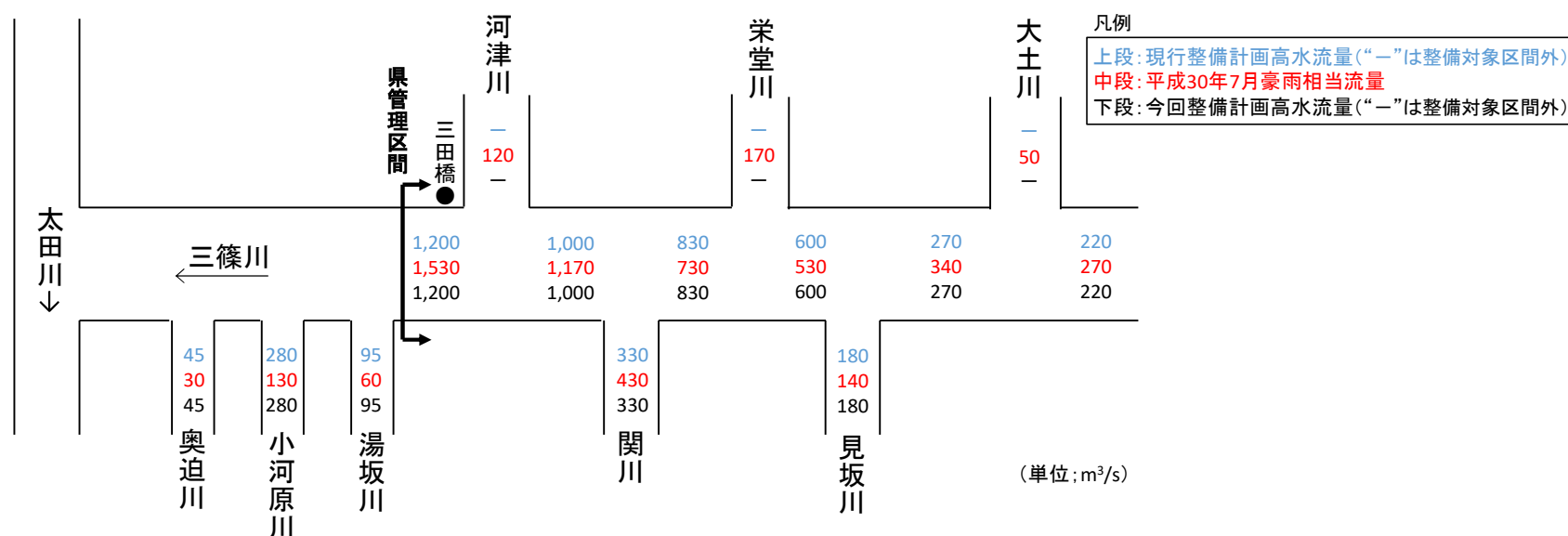


3.1 計画対象区間及び計画対象期間

- 河川整備計画対象区間は、広島県知事管理区間（変更なし）
- 河川整備計画対象期間は、概ね30年とする。

3.2 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する事項

- 洪水による災害の発生防止又は軽減に関しては、三篠川ブロック全域において、既往最大規模となった平成30年7月豪雨洪水相当の流量について、河川からの越水による家屋浸水被害が生じないように、河川改修を行います。



3.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

- 農業用水などの水利用や動植物の生息・生育環境及び景観の保全など、流水の正常な機能の維持を図るため、水利実態を把握し適正な水利用の促進に努める。（変更なし）
- 流水の正常な機能の維持を図るための流量は、流量観測を実施している中原橋地点で、かんがい期：概ね $1.9\text{m}^3/\text{s}$ 、非かんがい期：概ね $1.2\text{m}^3/\text{s}$ とし、その確保に努める。（流水の正常な機能の維持を図るための具体的な流量を設定）
- 水質環境基準の達成状況を踏まえ必要に応じて環境調査等を実施するほか、河川愛護に関する理解を広めることに努める。（変更なし）
- 異常渇水時には利水者に対する節水協力要請や流域住民に対する節水の呼びかけを行い関係機関への情報提供を行なうなど円滑な渇水調整に努める。（変更なし）

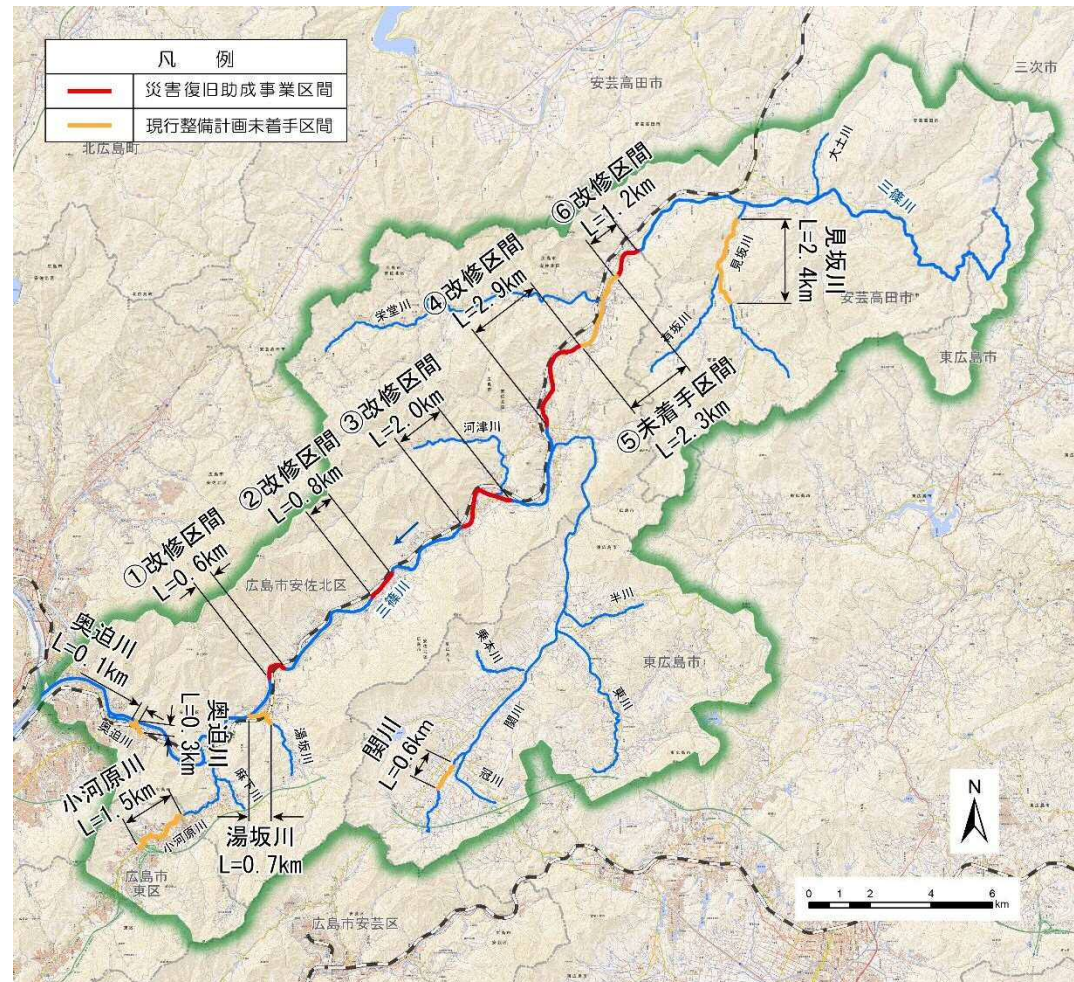
3.4 河川環境の整備と保全に関する事項

- 河川整備にあたっては、動植物の生息・生育環境を保全するため瀬・淵など現状の多様な河床形態を維持するとともに魚道の設置・改良を行う。（変更なし）
- 河川改修等を行う際は、極力、現況河床を改変しないような方法を選定し、河床掘削が必要な場合は、良好な動植物の生息・生育環境を呈する箇所を中心に、掘削後もその形状を再現するように努める。（変更なし）
- 学識経験者や住民の意見を聞き、濔筋、寄州、よどみの確保や川と陸との連続性および生態系の保全に配慮すると共に、動植物や川の流れが水質に及ぼす影響も考慮してなど多自然型河道の整備に努める。（変更なし）
- 親水護岸や遊歩道、河川に隣接する公園緑地と一体となった河川堤防などの整備により、人々に潤いとふれあいの場を提供できる水辺づくりを推進する。（変更なし）
- 水質改善にむけて関係機関との連携を図るとともに、地域住民に広報し水質改善に関する協力等について検討する。（変更なし）

4.1 河川工事の目的，種類及び施工の場所並びに 当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要

- 三篠川本川は，災害復旧助成事業区間および現行河川整備計画区間の未着手区間を整備対象区間とする。
- 支川奥迫川，小河原川，湯坂川，関川，見坂川は，平成30年7月豪雨の被災流量が，整備計画高水流量よりも小さい，もしくは平成30年7月豪雨の被災流量が，整備計画高水流量よりも大きい，整備区間において家屋浸水がないことを踏まえ，現行整備計画区間の未着手区間を整備対象区間とする。

河川名	位置	区間延長(km)
三 篠 川	①県管理区間下流端～三田橋	0.6
	②竜王橋上流～栗原頭首工	0.8
	③八幡橋～三篠橋	2.0
	④川角無連寺頭首工～松田頭首工	2.9
	⑤松田頭首工～福田頭首工	2.3
	⑥福田頭首工～宮古頭首工上流	1.2
奥 迫 川	JR芸備線鉄橋付近	河川改修：0.1 放水路：0.3
小河原川	西田橋上流～後谷橋下流	1.5
湯 坂 川	下須賀橋下流～上流	0.7
関 川	貞岡橋上流～長伝橋下流	0.6
見 坂 川	長田橋上流～奥谷川合流点下流	2.4



4.2 河川の維持の目的，種類及び施工の場所

4.2.1 河川維持の目的

- 河川の維持管理は地域の特性を踏まえつつ，洪水による被害の防止，河川の適正な利用，流水の正常な機能の維持，河川環境の整備と保全がなされるよう総合的に行う。（変更なし）

4.2.2 河川維持の種類及び施工の場所

施工区間：広島県知事管理区間（変更なし）

（１）流下能力の維持（変更）

- 「3.1 河川工事の施工場所」に示した河川（区間）以外で，部分的に流下能力が不足する箇所において，平成30年7月豪雨規模の洪水に対して家屋浸水被害を防止するため，関係機関と調整を図り，パラペットや引堤・掘削による対策を実施する。

（２）河道の維持（変更なし）

- 土砂が堆積し，洪水の流下の阻害となるなど治水上支障となる場合は，環境面も配慮しつつ掘削等必要な対策を行う。
- 出水などによる河床の低下は，護岸等構造物の基礎が露出すると危険なため早期発見に努めるとともに，河川管理上の支障となる場合は適切な処理を行う。

（３）護岸，堤防の維持（変更なし）

- 法崩れ，亀裂，陥没等の異常について早期発見に努めるとともに，河川管理上の支障となる場合は適切な処理を行う。

（４）植生の維持（変更なし）

- 良好な河川環境の保持を図る必要のある箇所の草刈りは市と協力して行う。

（５）濁水流出の防止（変更なし）

- 河川改修時に発生する濁水については，動植物の生息・生育環境，河川景観等への配慮から，これを防止または軽減するよう努める。

5. 河川情報の提供，地域や関係機関との連携等に関する事項

(1) 河川にかかる調査・研究等の推進

- 継続的に水文観測を行い，データを蓄積し，河川整備に役立てる（変更なし）
- 多自然型川づくりに関する生物の生息生育環境の調査・研究を関係機関との協力を図りながら推進し，技術的手法の確立に努める。（変更なし）
- 様々な調査・研究の成果は関係各所において有効利用が図れるよう努める。（変更なし）

(2) 河川情報の提供

- インターネット等で河川事業で整備された水辺の施設等を紹介するとともに，河川に関する自由な意見を承る。（変更なし）
- パンフレットや各種イベント等で河川事業や施策をPRし，理解と協力を得るように努める。（変更なし）
- 災害発生時の被害軽減を図るため，広島県水防テレメータシステムにより県内一円に配置した観測局で雨量・水位やダム諸量などのデータをリアルタイムで収集，表示・記録及び管理し，水防警報など必要な対策・支援を迅速に行う。（変更なし）
- 広島県防災情報システムに情報提供し，市をはじめ広く県民にも情報を提供する。（変更なし）
- 洪水時の危険度を把握するため，危機管理型水位計及び簡易型河川監視カメラを活用した監視体制の充実を図る。

(3) 地域や関係機関との連携

- 治水，河川利用及び景観などの河川環境上の適正な河川管理を図ることに支障が生じる場合は，関係機関と連携して対応する。（変更なし）
- 治水上影響を及ぼす開発行為については，必要に応じて流出抑制対策等を事業者に指導する。（変更なし）
- 超過洪水発生時の対応として，「広島県管理河川大規模氾濫時の減災対策協議会（西部建設事務所管内【西ブロック】）」を設立し，「洪水による『災害死ゼロ』」の実現を目指し，関係機関が一体となって，減災に向けた取組方針を定めるとともに，継続的なフォローアップを行い，必要に応じて取組方針の見直しを行う。
- 渇水時には関係機関と連携し，節水等の広報活動や円滑な渇水調整に努める。（変更なし）
- 良好な河川環境を維持するため，許可工作物の新設や改築にあたっては，施設管理者に対して治水上の影響等を考慮の上，環境の保全にも配慮するよう指導する。（変更なし）
- 清らかな水の流れを保持するため，台所対策など地域住民の取り組みに対する啓発のほか，下水道整備など関係機関と協力し，水質の保全に努める。（変更なし）
- 油の流出など水質事故が発生した時は，事故状況の把握，関係機関への連絡，河川や水質の監視，事故処理等について原因者及び関係機関と協力して対応する。（変更なし）
- 存在感のある川づくりを図るため，地域のまちづくりと調整し，観光施設等を活かした川づくりを目指し，地域住民や関係機関等との連携を強化する。（変更なし）
- 親しめる川づくりを進めるため，環境学習と結びつけた広報活動等により地域住民の河川への関心を高めるよう努めるとともに，川を汚さないよう住民のマナー向上についてのPR活動等を行う。（変更なし）
- 清掃・草刈りなどの河川愛護活動については市と協力して支援を行う。（変更なし）